

地方議員研究会セミナー 報告書

- テーマ：「職員の評価と給与への反映」
 - 講師：山中俊之氏（株式会社グローバルダイナミクス代表取締役・大阪市特別顧問）
 - 日時：平成30年5月24日（木） 午前10時～
- ☆USB音声DATA受講 平成30年6月9日（金）**

■内容

- ・人事評価と運用のポイント
- ・改正地方公務員法と総務省の取り組み
- ・360度評価と目標管理について
- ・相対評価と絶対評価
- ・大阪での改革と新たな問題点
- ・職員基本条例や手当への反映について

■感想

行政の人事評価についての受講は初めてであり、非常に新鮮だった。人事評価の基本的な仕組み（知識）を織り交ぜながらのお話だったので、よく理解することができた。

今回の受講は「評価者の育成」と「360度評価」について学ぶことが目的であったので、それについての講師なりの見解を聴くことができ、大変参考になった。

人事評価をする上でのキーワードは「客観性」と「納得感」である。

講師曰く、「行政の中で人事評価は（人事担当を除いて）軽視されている」。それは評価がどうであれ、その組織の存亡に関係ないからだと言う。それは行政が「経営」という言葉に無頓着だからだと私は思う。

人事評価というものを重視することが、市職員の資質向上につながり、それが市政の充実＝市民のためになるということを改めて感じた。

東北まちづくりオフサイトミーティング 報告書

- テーマ：「これからの公民連携まちづくり～オガールから見えてくるもの～」
- 日時：平成30年6月9日（土）
- 場所：オガールプラザ（岩手県紫波町）
- 内容：事例報告①後藤好邦氏（公民連携が求められるわけ）
事例報告②鎌田千市氏（公有地活用 オガールプロジェクト）
事例報告③手塚美希氏（寄り添う図書館）
 - ・上記3氏によるトークセッション
 - ・基調講演 岡崎正信氏

■感想

昨春の特別委視察以来、約1年ぶりのオガール。新たに聴く話も多々あり、改めて当プロジェクトの凄さを感じてきた。

- ① は山形市職員の報告者が公務員の立場で公民連携の必要性和公務員の魅力を語った。公務員はオフは「公」であり、オフは「私」。その立場は官と民のつなぎ役となり得る。だから、公務員には「官民双方で公に資する人財になれる」という魅力が詰まっている。
- ② の報告者は町から公民連携を学びに東洋大大学院に入学し、「公」の立場でプロジェクトに尽力した。とにかく前町長のブレない姿勢と覚悟を語ってくれた。住民に理解してもらうために意見交換会を計100回。これこそ、行政の説明責任である。「2番はない。1番をやれ」その考えが成功の要因ではないか。
- ③ は紫波町初の図書館づくりに奔走した報告者の「図書館が地域とどう関わるか？」というお話。「待つ」のではなく、「飛び出す」姿勢と図書館こそが地域の課題解決の役に立つという信念。横手市ももっと「図書館のあり方」について深く考察していかなければならない。

基調講演は「民」の立場でプロジェクトを成功に導いた講師のお話。

- ・公民連携はあくまで「民」主導
- ・不動産の価値が上がることでまちを存続させる
- ・「そこにしかないもの」
- ・「今」の課題ではなく、「先」の課題は何か？
- ・金がないなら知恵を出せ
- ・常に改善していくことが継続につながる
- ・「共感」してもらうことが大事。

このプロジェクトに自らが経営する会社が一円も下りないその高潔さと併せ、繰り出されるそのキーワード、大いに参考になった。